

地域幸福度Well-Being指標

(Well-Being指標の周辺都市比較)

令和 7 年 1 月 24 日

目 次

1. Well-Being指標について

- 図1-1 Well-Being（地域幸福度）指標とは
- 図1-2 Well-Being指標について
- 図1-3 Well-Being指標について【主観指標】
- 図1-4 Well-Being指標について【客観指標①】
- 図1-5 Well-Being指標について【客観指標②】

2. 大阪市のWell-Being指標

- 図2-1 大阪市のWell-Being指標
- 図2-2 都心6区及び周辺区のWell-Being指標【主観データ】

3. Well-Being指標の他都市比較

- 図3-1 大阪市及び他都市のWell-Being指標
- 図3-2 大阪市及び他都市のWell-Being指標【主観データ】
- 図3-3 大阪市及び他都市のWell-Being指標【客観データ】
- 図3-4 大阪市及び他都市のWell-Being指標【主観データ×客観データ】
- 図3-5 大阪市及び他都市の生活環境に関する指標【主観データ】
- 図3-6 【参考】大阪市及び東京都区部のWell-Being指標【主観データ×客観データ】
- 図3-7 【参考】大阪市及び東京都区部のWell-Being指標（都心区・周辺区比較）【主観データ】

4. まとめ（住まいの観点）

- 図4-1 大阪市及び他都市のWell-Being指標比較まとめ

1. Well-Being指標について

デジタル田園都市国家構想実現に向けた 地域幸福度（Well-Being）指標の活用

人々の『心ゆたかな暮らし』へ。

地域幸福度（Well-Being）指標とは、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化する指標です。

主観指標

【アンケートによる主観データ】

- ・各自治体が集めたアンケートデータをもとにしている
- ・「幸福感（Well-being）」を算出したもの
- ・時系列での比較に強い

客観指標

【オープンデータによる客観データ】

- ・各種オープンデータ等をもとにしている
- ・「暮らしやすさ」を測定したもの
- ・分野間などの比較に用いる

図1-2 Well-Being指標について

主観指標【アンケートによる主観データ】

幸福度・生活満足度を計る4つの設問

1

現在、あなたはどの程度幸せですか？

2

現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？

3

現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか？

4

自分でなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う

+

3つの因子群

※因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。

生活環境

医療・福祉 買物・飲食 住宅環境 移動・交通 遊び・娯楽
子育て 初等・中等教育 地域行政 デジタル生活 公共空間
都市景観 自然景観 自然の恵み 環境共生 自然災害
事故・犯罪

地域の人間関係

地域とのつながり
多様性と寛容性

自分らしい生き方

自己効力感 健康状態
文化・芸術
教育機会の豊かさ
雇用・所得 事業創造

客観指標【オープンデータによる客観データ】

3つの因子群

※因子群は合計24のカテゴリーに細分化されます。

生活環境

医療・福祉 買物・飲食 住宅環境 移動・交通 遊び・娯楽
子育て 初等・中等教育 地域行政 デジタル生活 公共空間
都市景観 自然景観 自然の恵み 環境共生 自然災害
事故・犯罪

地域の人間関係

地域とのつながり
多様性と寛容性

自分らしい生き方

自己効力感 健康状態
文化・芸術
教育機会の豊かさ
雇用・所得 事業創造

図1-3 Well-Being指標について【主観指標】

主観（ウェルビーイング）評価指標～全50問

地域における幸福度・生活満足度（4）

- 現在、あなたはどの程度幸せですか？
- 現在、あなたの町内（集落）の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか？
- 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか？
- 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う

生活環境（16）

- 医療・福祉（2）
 - 医療機関が充実している（利便性）
 - 介護・福祉施設のサービスが受けやすい
- 買物・飲食（2）
 - 日常の買い物に全く不便がない（利便性）
 - 飲食を楽しめる場所が充実している
- 住宅環境（3）
 - 自宅には、心地よい居場所がある（居住空間）
 - 【逆】自宅の近辺では、騒音に悩まされている（秩序）
 - 適度な費用で住居を確保できる
- 移動・交通（1）
 - 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる
- 遊び・娯楽（1）
 - 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

子育て（2）

- 子育て支援・補助が手厚い
- 子どもたちがいきいきと暮らせる

初等・中等教育（2）

- 教育環境（小中高校）が整っている
- 通学しやすい場所に学校がある

地域行政（2）

- 地域の行政は、地域のことを真剣に考えている（地域行政）（社会関係資本）
- 公共施設は使い勝手良く便利である（利便性）

デジタル生活（2）

- 行政サービスのデジタル化が進んでいる
- 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

公共空間（2）

- 地域の雰囲気は、自分にとって心地よい（相性）
- まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

都市景観（1）

- 自慢できる都市景観がある

自然景観（1）

- 自慢できる自然景観がある

自然の恵み（2）

- 身近に自然を感じることができる（自然）
- 暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる（自然）

環境共生（1）

- リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである

自然災害（1）

- 暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている。

事故・犯罪（2）

- 防犯対策（交番・街燈・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい
- 歩道や信号が整備されていて安心である

地域の人間関係（2）

地域とのつながり（5）

- 私は同じ町内に住む人たちを信頼している（社会関係資本）
- 地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである（社会関係資本）
- 困ったときに相談できる人が身近にいる（つながり・感謝）（社会関係資本）
- 町内の人人が困っていたら手助けする（向社会的行動）
- このまちに愛着を持っている（一体感）

多様性と寛容性（5）

- 町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある（異質性・多様性）
- 私は見知らぬ他者であっても信頼する（異質性・多様性）（過干渉・不寛容）
- 私は、町内（集落）の人が自分をどう思っているかが気になる（一体感）（過干渉・不寛容）
- 女性が活躍しやすい
- 若者が活躍しやすい

自ららしい生き方（6）

自己効力感（1）

- 自分のことを好ましく感じる（一体感）

健康状態（2）

- 身体的に健康な状態である（健康）（地域の幸福）
- 精神的に健康な状態である（健康）（地域の幸福）

文化・芸術（2）

- 文化・芸術・芸能が盛んで賑らしい（ダイナミズム・誇り）
- 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（多世代共創）

教育機会の豊かさ（1）

- 学びたいことを学べる機会がある

雇用・所得（2）

- やりたい仕事を見つけやすい
- 適切な収入を得るために機会がある

事業創造（1）

- 新たなことに挑戦・成長するための機会がある（ダイナミズム・誇り）（モチベーション）

図1-4 Well-Being指標について【客観指標①】

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカタログ

指標を構成するKPIは次ページを参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

生活環境 (16)

医療・福祉

- 医療施設徒歩圏人口カバー率
- 医療施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり国保医療費 (-)
- 人口あたり後期高齢者医療費 (-)
- 特定健康診断受診率
- 福祉施設徒歩圏人口カバー率
- 福祉施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 人口あたり児童福祉施設数
- 人口あたり障害者施設数
- 人口あたり障害者サポートメイト・サポートー数

買物・飲食

- 商業施設徒歩圏人口カバー率
- 商業施設徒歩圏平均人口密度 (-)
- 可住地面積あたりの飲食店数
- 人口あたり飲食店数

住宅環境

- 住宅あたり延べ面積
- 平均価格（住宅地） (-)
- 専用住宅1m²あたり家賃 (-)
- 一戸建の持ち家の割合

移動・交通

- 駅またはバス停留所徒歩圏人口カバー率
- 駅およびバス停徒歩圏人口密度 (-)
- 人口あたり小型車走行キロ (-)
- 通勤通学に自家用車・オートバイ・タクシーを用いない割合
- 職場までの平均通勤時間 (-)

遊び・娯楽

- 人口あたり娯楽業（映画館・劇場・スポーツ施設等）の事業所数

子育て

- 保育所まで1km未満の住宅割合
- 可住地面積あたり幼稚園数
- 施設あたり幼稚園児数 (-)
- 人口あたり待機児童数 (-)
- 歳出総額における教育費の構成比
- 合計特殊出生率

初等・中等教育

- 可住地面積あたり小学校数
- 可住地面積あたり中学校数
- 可住地面積あたり高等学校数
- 施設あたり小学生数 (-)
- 施設あたり中学生数 (-)
- 施設あたり高校生数 (-)

地域行政

- 人口あたり体育施設利用者数
- 人口あたり図書館帶出者数
- 人口あたり博物館入館者数
- 地域財政指数

デジタル生活

- 自治体DX指数
- デジタル政策指数
- デジタル生活指数

公共空間

- 公園緑地徒歩圏人口カバー率
- 人口あたり公園の面積
- 歩道設置率
- ウォーカブル指数

都市景観

- 都市景観指数

自然景観

- 自然景観指数

自然の恵み

- 食料生産ポテンシャル
- 水供給ポテンシャル
- 木材供給ポテンシャル
- 炭素吸収量
- 蒸発散量
- 地下水涵養量
- 土壌流出防止量
- 硝素除去量
- リン酸除去量
- NO₂吸収量
- SO₂吸収量
- 洪水調整量
- 表層崩壊からの安全率
- 緑地へのアクセス度
- 水域へのアクセス度
- オートキャンプ場への立地

環境共生

- NO_x平均値 (-)
- PM2.5年平均値 (-)
- ゴミのリサイクル率
- 人口あたり年間CO₂排出量 (-)
- 人口あたり再生エネ発電量
- 環境政策指数

自然災害

- 外水氾濫危険度
- 高潮危険度
- 土砂災害危険度
- 地震動危険度
- 津波危険度
- ハード対策
- 避難・救助
- 要配慮者支援
- 防災教育
- 防災まちづくり
- 情報・デジタル防災

事故・犯罪

- 人口あたり交通事故件数* (-)
- 人口あたり刑法犯認知件数* (-)
- 空家率 (-)

指標を構成するKPIはP14~15を参照

*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

図1-5 Well-Being指標について【客観指標②】

市区町村版 暮らしやすさ客観指標のカタログ

指数を構成するKPIは次ページを参照
*各都道府県・市区町村HP等から取得
(-)のあるKPIは高い方が偏差値が低く算出

地域の人間関係 (2)

地域とのつながり

- 人口あたり自殺者数 (-)
- 拡大家族世帯割合
- 既婚者の割合
- 高齢単身世帯の割合 (-)
- 居住期間が20年以上の人口の割合
- 祭り開催数
- 自治会・町内会加入率*
- 人口あたり政治団体等の数
- 人口あたり宗教の事業所数
- 人口あたりNPOの数
- 人口あたり都市再生推進法人・UDCの数
- 関係人口創出活動指数

多様性と寛容性

- 議会における女性議員の割合
- 自治体の管理職職員における女性の割合
- 自治体職員における障害者の割合
- 人口あたり外国人人口
- 多様性政策指数

自分らしい生き方 (6)

自己効力感

- 首長選挙投票率
- 市区町村議会選挙の投票率

健康状態

- 健康寿命 (平均自立期間) (男性)
- 健康寿命 (平均自立期間) (女性)

文化・芸術

- 芸術家・著述家等の割合
- 国宝・重要文化財 (建造物) の数
- 日本遺産の数

教育機会の豊かさ

- 大卒・院卒者の割合
- 可住地面積あたり大学・短期大学の数
- 可住地面積あたり国立・私立中高一貫校数
- 人口あたり生涯学習講座数
- 人口あたり生涯学習講座受講者数
- 人口あたり青少年教育施設利用者数
- 人口あたり女性教育施設利用者数

雇用・所得

- 完全失業率 (-)
- 若年層完全失業率 (-)
- 正規雇用者比率
- 高齢者有業率
- 高卒者進路未定者率 (-)
- 市区町村内で従業している者の割合
- 創業比率
- 納税者あたり課税対象所得

事業創造

- クリエイティブ産業事業所の構成比
- 新規設立法人の割合
- 従業者数あたりコワーキングスペースの数
- 大学発ベンチャー企業数

2. 大阪市のWell-Being指標

図2-1 大阪市のWell-Being指標

- 大阪市の全世代と30代の主観データを比較すると、大きな差は見受けられず、
「住宅環境」「自然の恵み」等については全世代でも30代でも評価が低くなっている。

【大阪市全域】n=2,426

(参考)【大阪市全域（30代）】n=205

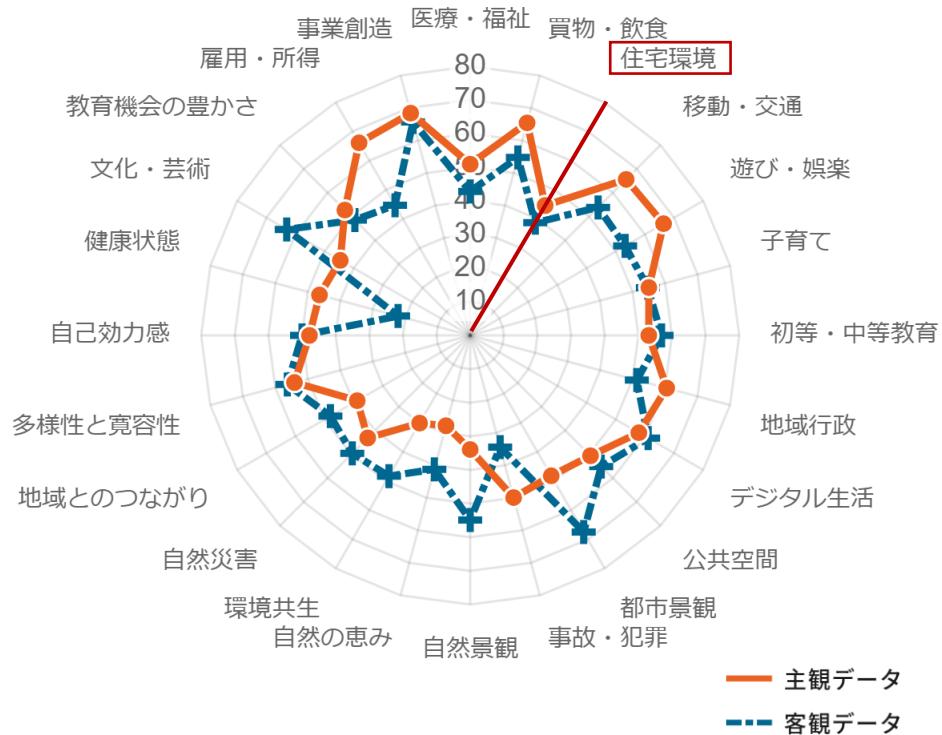
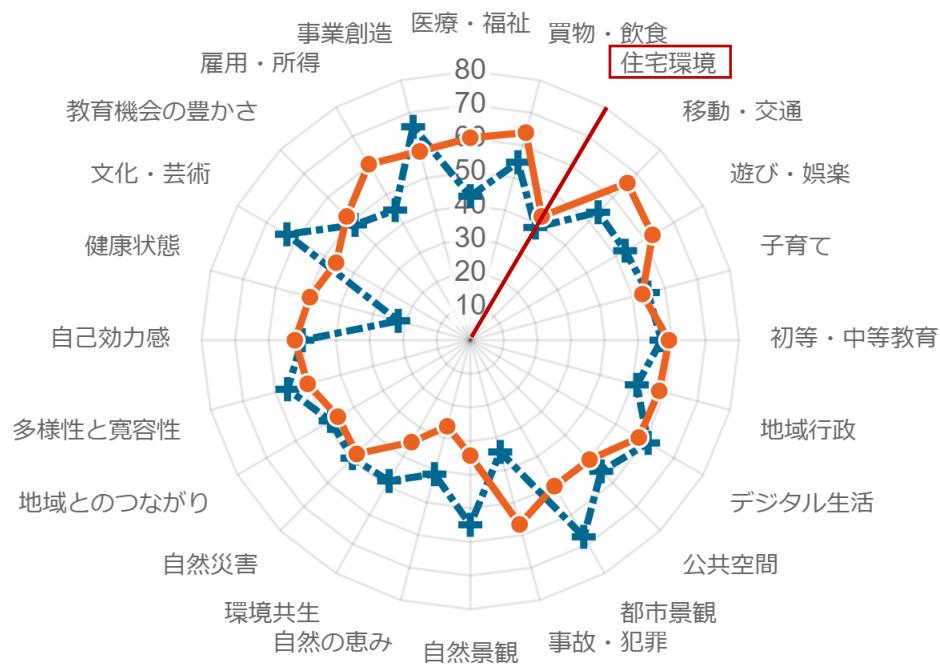
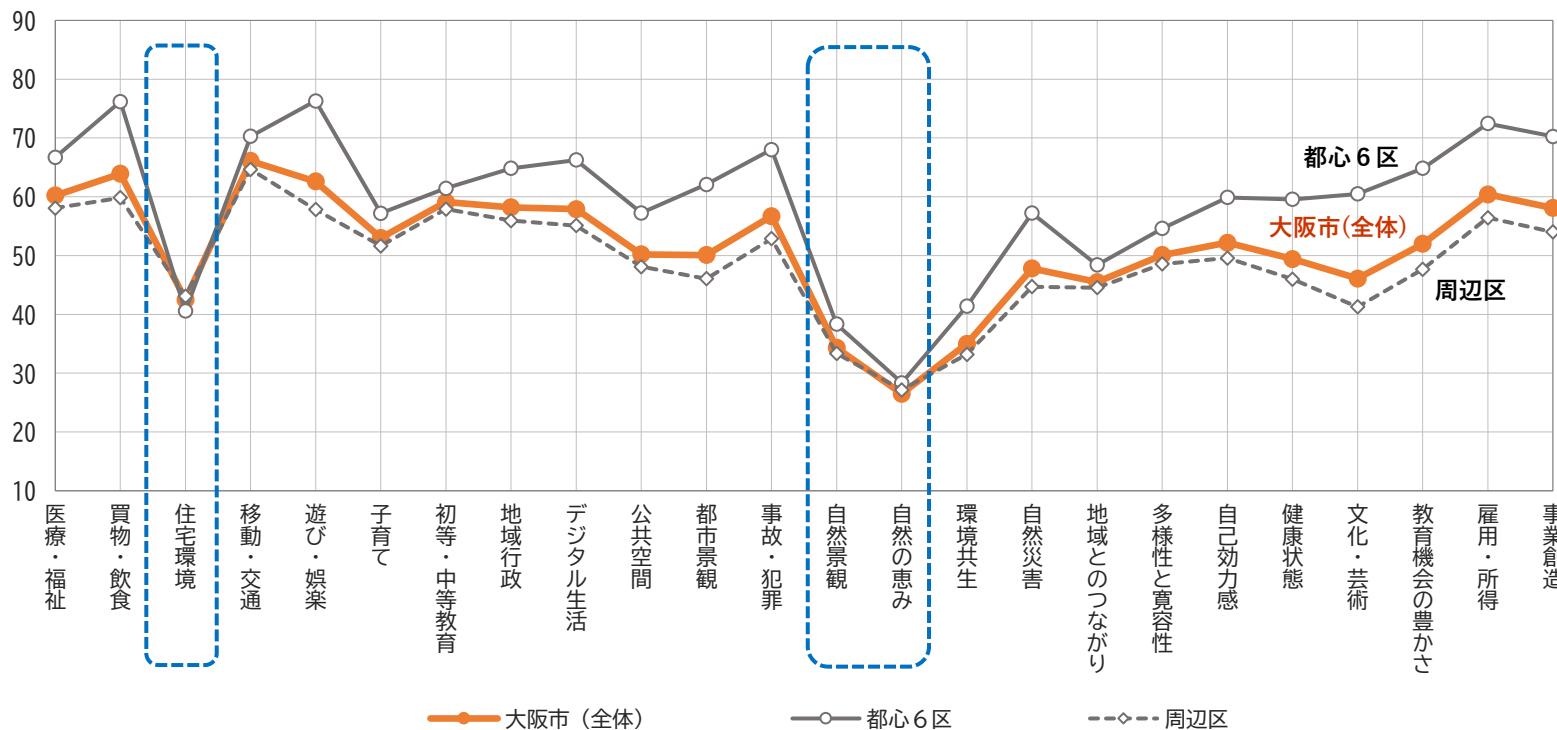


図2-2 都心6区及び周辺区のWell-Being指標【主観データ】

- 都心6区及び周辺区の主観データを比較すると、都心6区の居住者は周辺区の居住者と比べ、居住区に対して良いイメージや満足感を持っていることが分かる。
- 「住宅環境」「自然景観」「自然の恵み」などの居住環境に関する項目については都心6区と周辺区で大きな差は見受けられず、いずれも評価が低くなっている。



※都心6区：北区・福島区・中央区・西区・天王寺区・浪速区

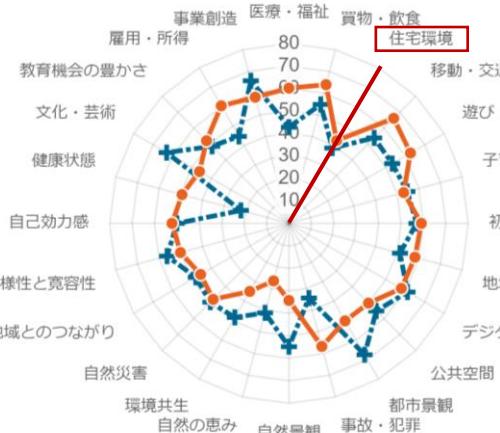
3. Well-Being指標の他都市比較

図3-1 大阪市及び他都市のWell-Being指標

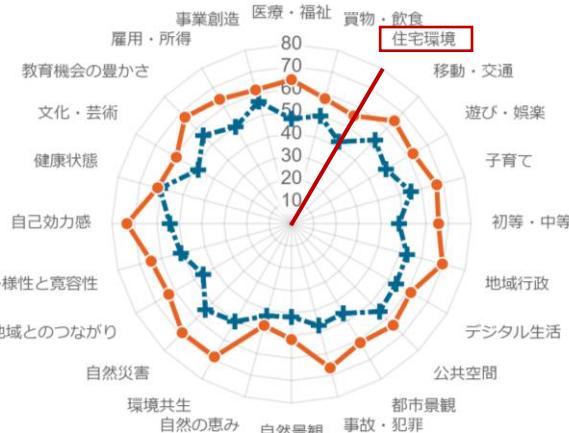
○ 大阪市及び他都市※のWell-Being指標（全世代）を比較する。

※大阪市から大阪府内他市町村への転出超過状況（令和5年度・日本人・30代）より、転出先の上位5市

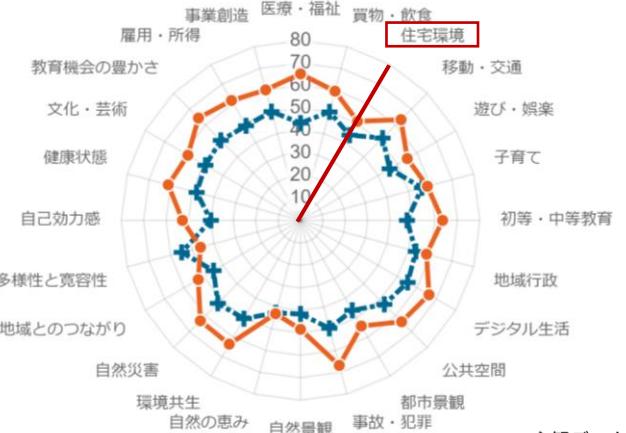
【大阪市全域】n=2,426



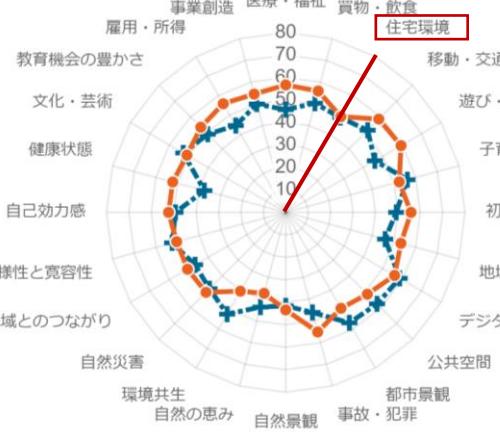
【吹田市】n=102



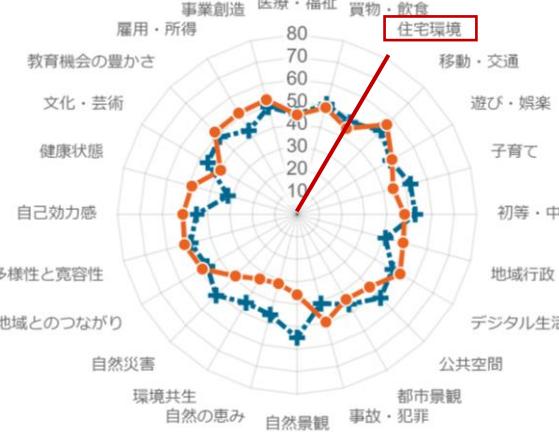
【豊中市】n=101



【堺市】n=1,001



【東大阪市】n=101



【八尾市】n=102

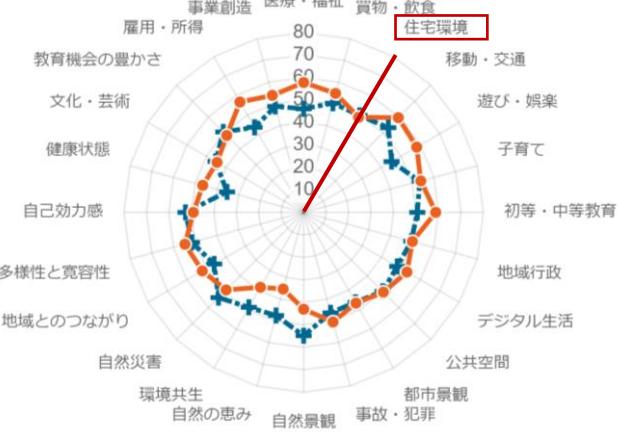


図3-2 大阪市及び他都市のWell-Being指標【主観データ】

- 大阪市の居住者は他都市の居住者と比べ、「買物・飲食」「移動・交通」など、利便性において満足感を持っていることがわかる。
- 逆に「自然の恵み」「住宅環境」など、居住環境に関する項目においては評価が低くなっている。
- 都市ごとに見ると、吹田市・豊中市においては全体的に主観データの評価が高く、居住市に非常に良いイメージや満足感を持っていることが伺える。

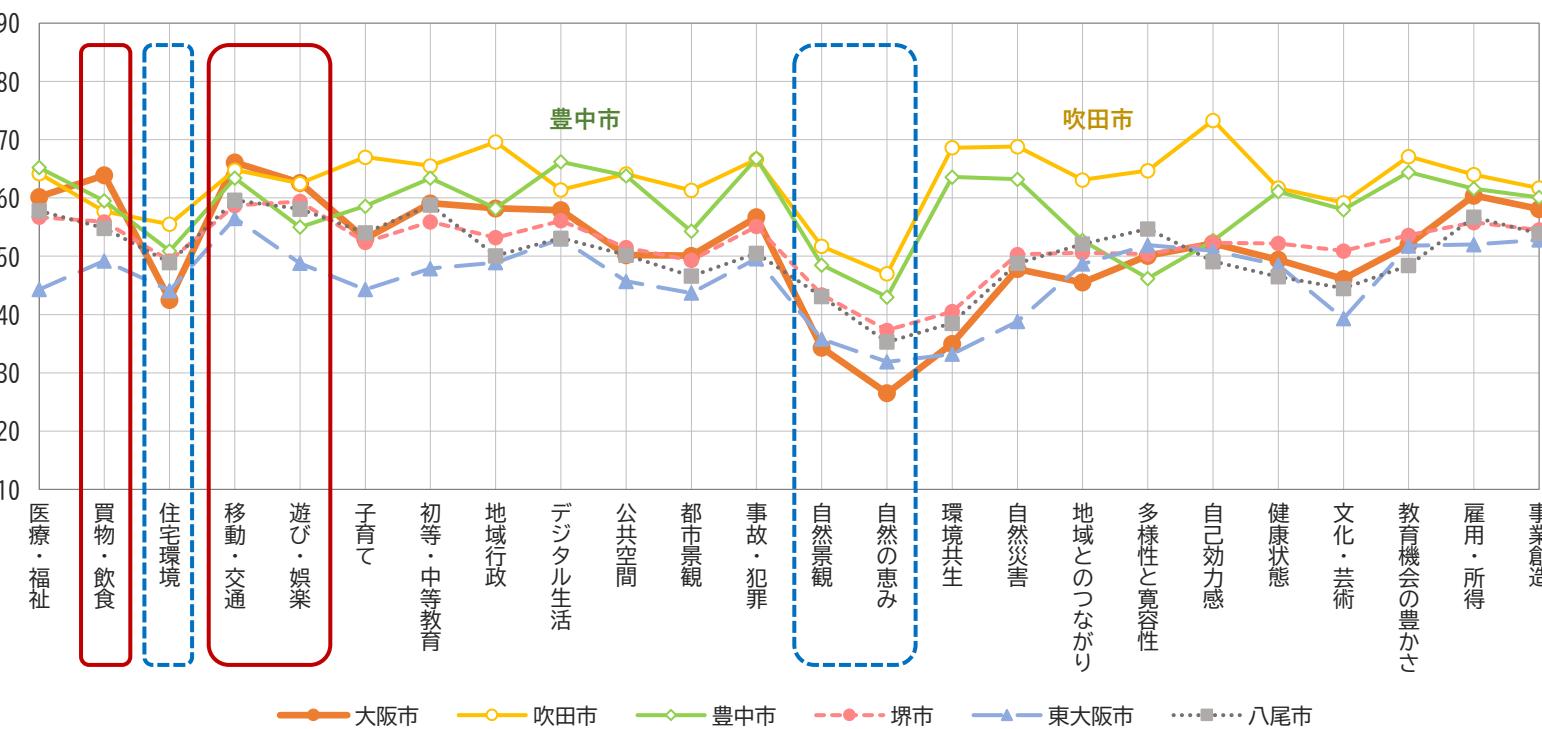


図3-3 大阪市及び他都市のWell-Being指標【客観データ】

- 「買物・飲食」「遊び・娯楽」「初等・中等教育」「都市景観」「文化・芸術」「事業創造」など他都市と比べ評価が高くなっている項目が多くある。
- 「住宅環境」「事故・犯罪」「健康状態」の項目については他都市と比べて評価が低くなっている。

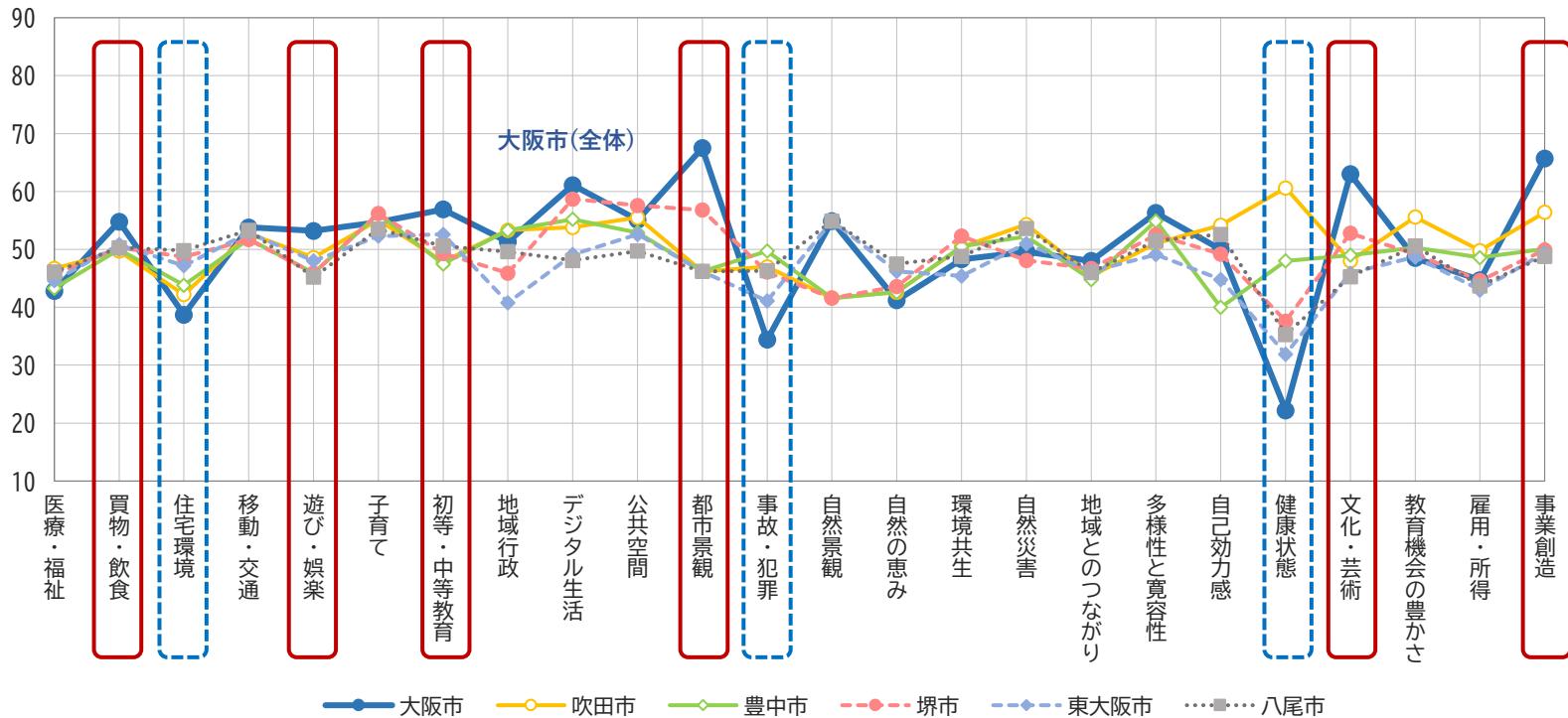
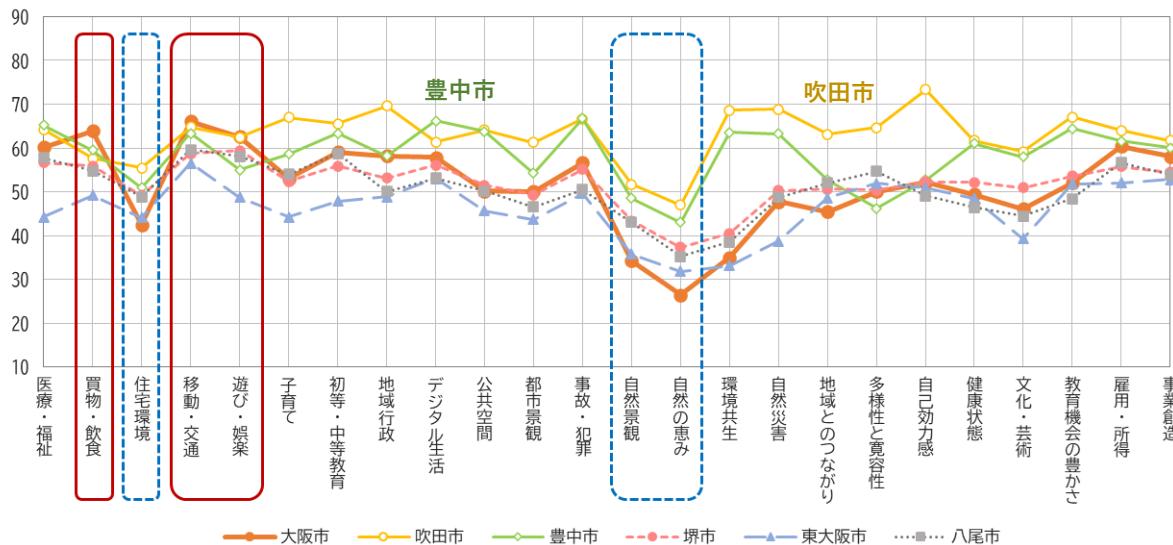


図3-4 大阪市及び他都市のWell-Being指標【主観データ×客観データ】

- 大阪市では、「初等・中等教育」「都市景観」「文化・芸術」「事業創造」など他都市と比べ客観データの評価が高くなっている項目が多くあるが、主観データには表れていない。

【主観データ】



【客観データ】

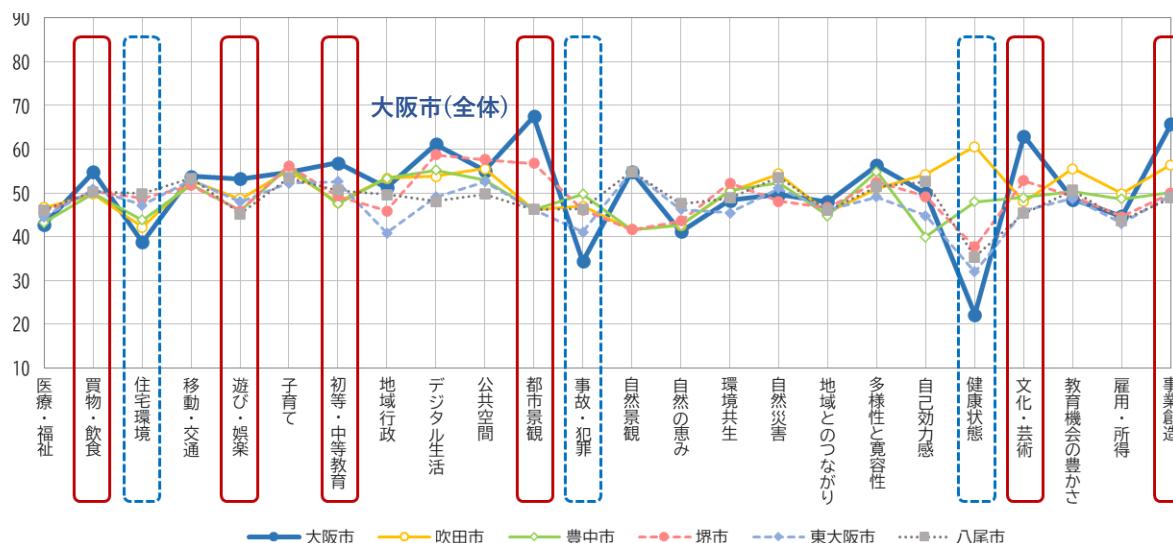


図3-5 大阪市及び他都市の生活環境に関する指標【主観データ】

- 大阪市は他都市と比べ、主観データでは「身近に自然を感じる」「空気や水はきれい」といった環境に関する項目の評価が低くなっており、「騒音」の被害も大きい。
- 逆に「飲食を楽しめる」「公共交通の移動良」といった利便性に関する項目は他都市と比べて高い評価となっている。

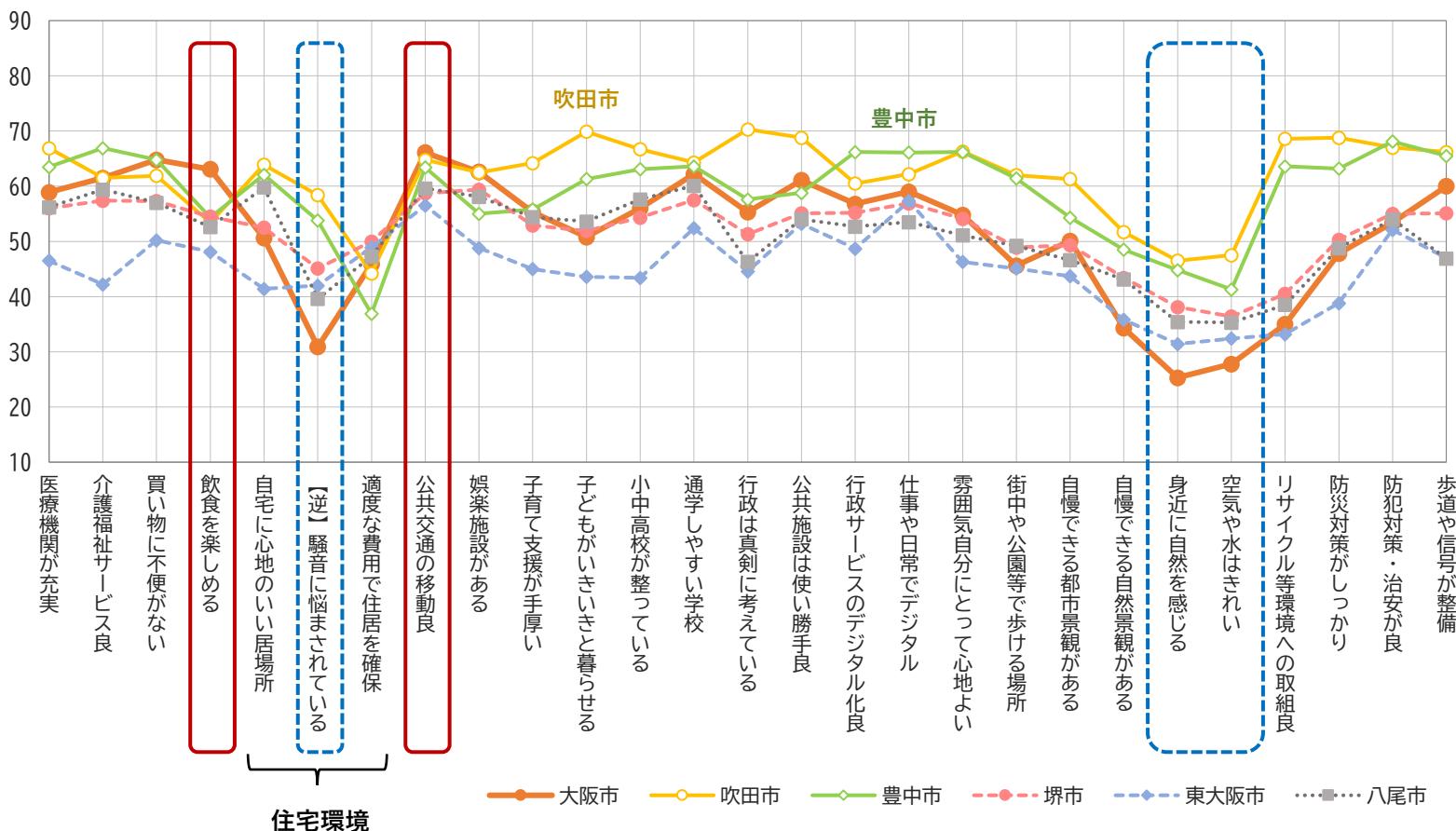
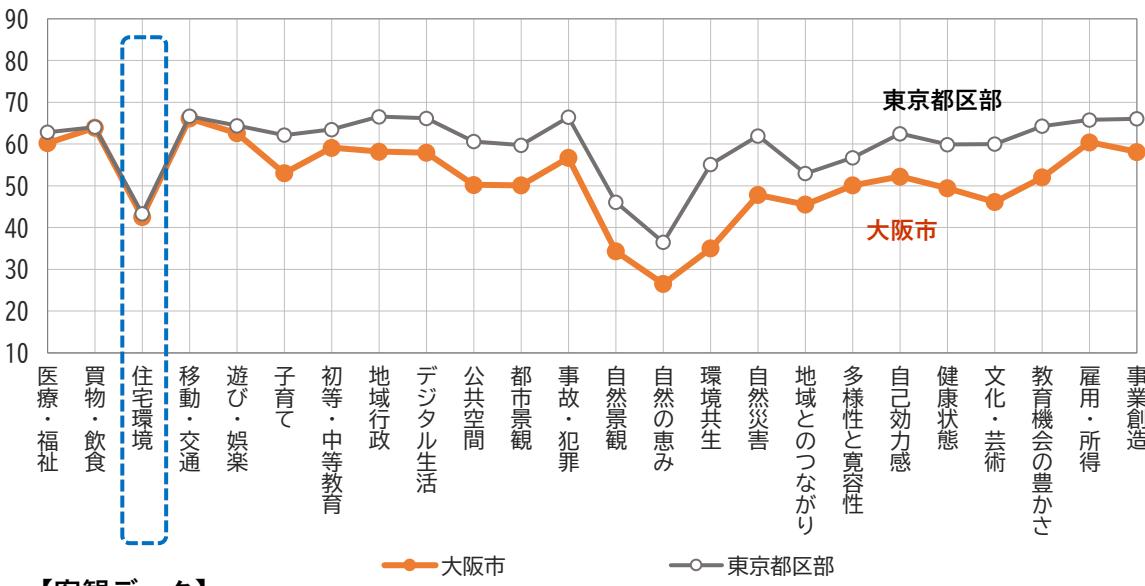


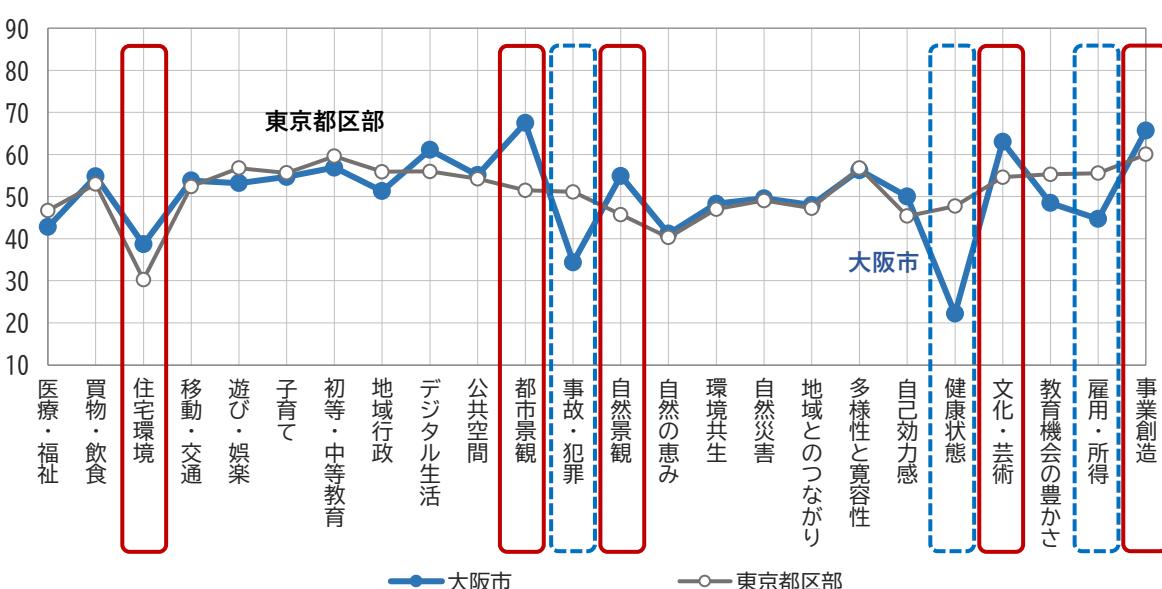
図3-6 【参考】 大阪市及び東京都区部のWell-Being指標【主観データ×客観データ】

- 大阪市と東京都区部を比較すると、客観データでは「住宅環境」「都市景観」「自然景観」など大阪市の方が評価が高い項目もあり、全体として大きな差は見受けられないが、主観データでは全ての項目において大阪市の方が評価が低くなっている。

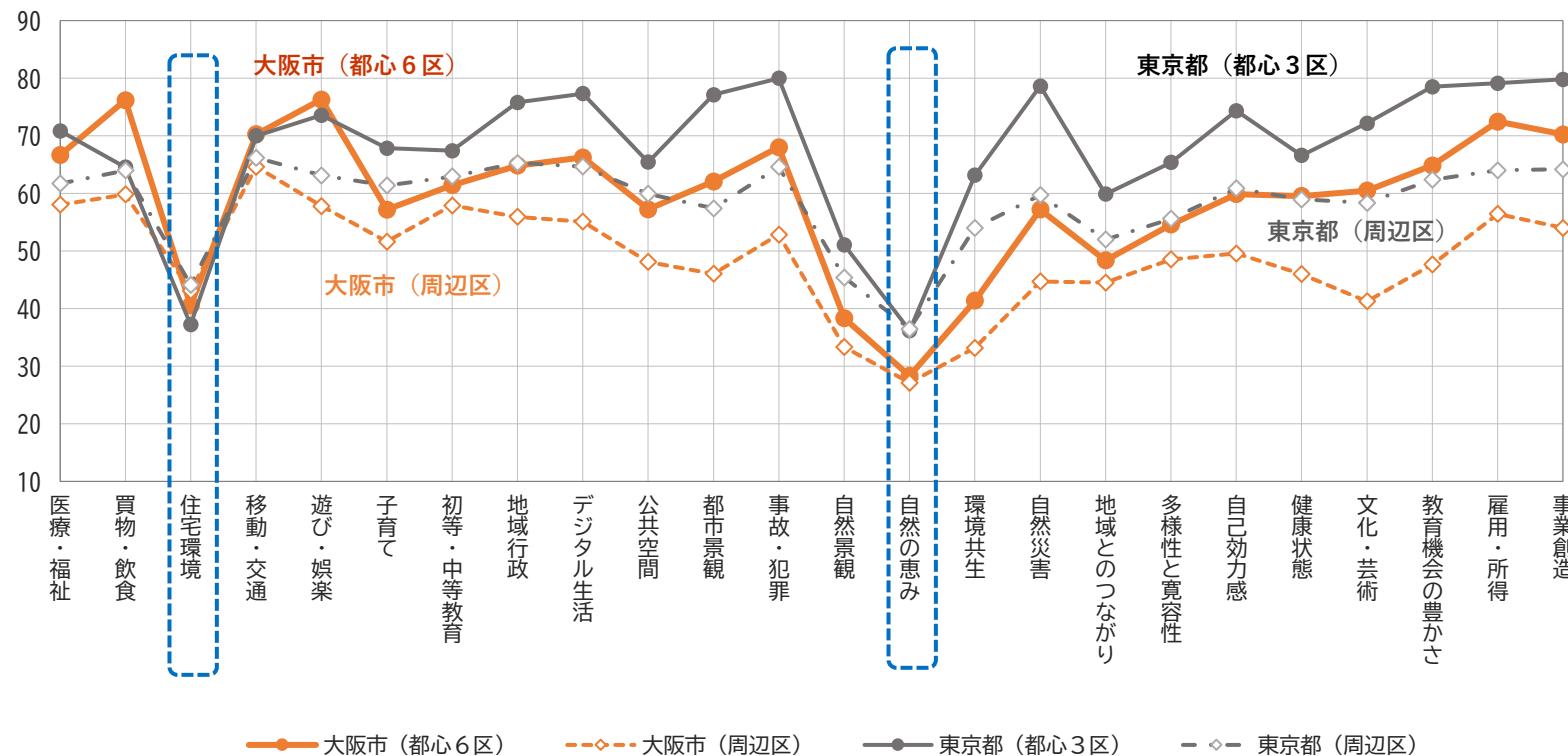
【主観データ】



【客観データ】



- 都心区・周辺区の主観データを比較すると、大阪市と東京都区部ではともに都心区の居住者は周辺区の居住者と比べ、居住区に対して良いイメージや満足感を持っており、「住宅環境」「自然の恵み」などの評価が低い項目については都心区と周辺区で大きな差は見受けられないという、同様の傾向が見られた。



4. まとめ（住まいの観点）

図4-1 大阪市及び他都市のWell-Being指標比較まとめ

- 住まいの観点（「住宅環境」項目）から大阪市及び他都市のWell-Being指標について見ると、吹田市・豊中市と比較して客観データの評価に大きな差は見受けられないが、主観データの評価が低くなっている。
- さらに、東京都は客観データでは大阪市より評価が低いが、主観データでは大阪市より評価が高くなっている。
- 上記のような都市は居住市の住宅環境に対するイメージが良いことが伺える。

【「住宅環境」項目の主観・客観データ比較】

